

社会科学学習指導案

平成 15 年 10 月 23 日（木）2 校時
5 年 2 組（視聴覚室・図書室） 指導者 林 信也・寺川行厚

授業の視点

まとめる過程において、調べる過程でグループ化し、タイトルをつけた事実や気付き同士をキャッチカードやワークシートを活用して段階的に関連付け、再構成していく活動を取り入れたことは、児童が、相互の関連に着目していく必要感を高め、調べてわかったこと、ここから考えられることをまとめるために有効であったか。

単元名 わたしたちの生活と情報（小単元：情報の活用）

考 察

1 児童の実態（在籍 男子14名 女子12名 計26名）

児童は、社会科との出会いからこれまで、問題解決的な学習の経験を重ねてきた。例えば、3年「わたしたちの暮らしと商店」では、校区や市内の商店街を通した追究をもとにめざす商店街について発信や交流活動に取り組んだ。また、4年「開けゆくきょうど」では、地域とゆかりの深い「天狗岩用水開削」にかかわる見学、体験的活動を通して、5年「わたしたちの生活と食料生産」では、「イネ」にかかわる発展的活動を通して学びを深めてきた。

これらの学習の中で、児童の多くが、見学や体験をしたり、資料をもとに調べたり、まとめたことを多様な方法で表したり、伝え合ったりするなどの具体的な活動に楽しさや喜びを見いだしてきた。しかし、目新しいことが体験できる、パソコンが使える、紙芝居やクイズが友達とできるといった、活動の特性や形態、方法等への楽しみが主になり、なぜ活動するのかという目的や動機はわきに押しやられ、大方は楽しかったで終わってしまいがちである。また、活動を通して社会的な事象の意味や働きを追究していける児童は限られている。活動することに楽しさを見いだすにとどまり、問題解決に十分至っていないことがうかがえる。

このことは、調べる、まとめる過程の学びの在り方と深いかかわりがあると考えられる。事象に関心を寄せ、追究に意欲を見せながらも、調べ方やまとめ方に支援を要する児童が多い。これまでの学習経験により、必要な資料を収集したり、選択したりする力は徐々にについてはきている。しかしそれを十分生かしきれず、資料からの読み取りやそれら相互に対する分類・整理が不十分であることに気付かなかつたり、気付いていても判然としないまま他の活動へと関心が移ってしまったりする児童の姿が見られる。そのため、追究の方向がそれたり、行き詰まったりしてしまう。このような児童に対して、追究の視点（問題解決に結びつく着眼点）の見直しや資料活用の技能などの側面から支援を重ねてきた。しかし、調べる、まとめる過程における直接的な手だてについては、これまで十分な工夫や改善を図るまでには至らなかった。

児童が、社会的な事象のもつ意味や働きを追究していくには、資料から読み取ったことを調べる過程では比べ、分類・整理していくこと、まとめる過程ではつなげ、再構成していくことなどの活動を取り入れていくことが大切であると考えられる。

資料から読み取ったことを比べ、つなげる活動を通して、それらに対する確認や見直しの意識を高めるとともに吟味を重ね、価値を見い出し、相互の関連に着目しながらそれらの意味するところを統合してとらえていくことにより、社会的な事象の意味や働きを追究していく力を育てていけるものと考えられる。

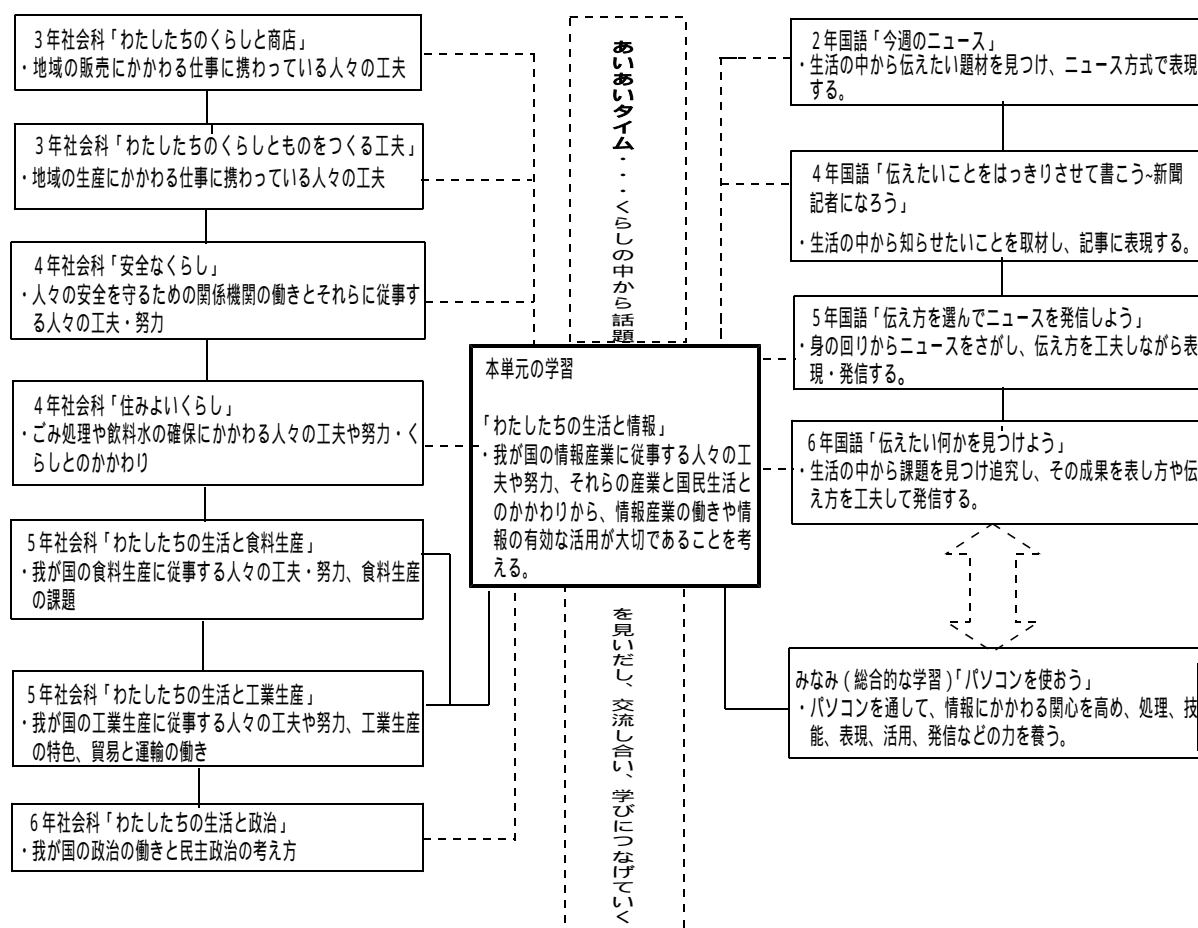
2 教材観

本単元は、学習指導要領の第5学年の目標(1)(3)、内容(3)を受けて設定したものである。

今日、様々なメディアを介して間断なくもたらされる多種多様な情報にどのように応じ、向き合っていくかが、社会生活を営む上で私たちにとって大きな課題となっている。絶えず変化しながら押し寄せる情報に対処していく力が今後ますます重要になってくることは想像に難くない。その意味で、情報産業と自らの生活とのかかわりを考えていく中で、役立つ情報を見極め、有効に活用していこうとする意識を高めていくことは、[生きる力]をはぐくむことに結びついていくものとする。

また、こうした情報に対する見方・考え方は、問題解決的な学びの過程を通して深められ、学びの中に形となって現れてくると考える。児童は、解決のための資料等を吟味しながら、比較する、関連付けるなどして、表現や発信のための活用を図っていく。本単元は、その学習過程において、追究内容を実感したり、身をもって実現したりしながら学びを深めていける教材であり、情報産業に従事する人々の工夫・努力や情報の活用に対する見方や考え方を各自の学びの在り方に位置付けていくことが期待できるものといえる。

3 系統性(他単元・教科・領域との関連)



目標・評価規準

【目】 我が国の情報産業(放送局)に従事する人々の工夫や努力、それらの産業と国民生活

標	とのかわりについて理解し、我が国の情報産業の発展に関心をもつ。	
評 価 規 準	おおむね満足できる	十分満足できる
	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の情報産業（放送局）に従事する人々の工夫や努力、それらの産業と国民生活とのかわりに関心をもち、調べようとする。 【社会的事象への関心・意欲・態度】 我が国の情報産業（放送局）に従事する人々の工夫や努力、それらの産業と国民生活とのかわりから、国民生活における情報産業の働きや情報の活用のもつ意味を考える。 【社会的な思考・判断】 我が国の情報産業（放送局）に従事する人々の工夫や努力、それらの産業と国民生活とのかわり及び情報活用の在り方等について、的確な視点から見学や体験的学習をしたり、基礎的資料を活用したりして調べ、その成果をまとめたり、表現したりする。 【観察・資料活用の技能・表現】 我が国の情報産業（放送局）は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを理解する。 【社会的事象についての知識・理解】 	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の情報産業（放送局）に従事する人々の工夫や努力、それらの産業と国民生活とのかわりに関心をもち、進んで調べようとする。 【社会的事象への関心・意欲・態度】 我が国の情報産業（放送局）に従事する人々の工夫や努力、それらの産業と国民生活とのかわりから、国民生活における情報産業の働きや情報の活用のもつ意味をとらえ、それらに対して自らの考えをもつ。 【社会的な思考・判断】 我が国の情報産業（放送局）に従事する人々の工夫や努力、それらの産業と国民生活とのかわり及び情報活用の在り方等について、的確な視点から見学や体験的学習をしたり、基礎的資料を効果的に活用したりして調べ、その成果を工夫してまとめたり、目的に応じた方法で表現したりする。 【観察・資料活用の技能・表現】 我が国の情報産業（放送局）は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを多面的に理解する。 【社会的事象についての知識・理解】

指導方針

児童が、情報の活用のもつ意味を追究していくことができるよう、問題解決的な学習の調べる、まとめる過程において、次のように資料から読み取ったことを比べる、つなげる活動を取り入れていく。

資料から読み取ったことを比べる活動

調べる過程において、児童が、追究の視点即して資料から読み取った事実や気付きに対して、確認や見直しの意識を高めるとともに吟味を重ね、それらもつ価値を見だしていけるよう、以下のように資料から読み取ったことを比べる活動を働きかけていく。

- ・ 追究の各視点(行楽・レジャー、医療、交通、宅配便、気象)に即して資料から読み取った事実や気付きを相互に比較し、重なりを取り除いたり、不必要なものを切り捨てたり、不足しているものを付け加えたりして、蓄積・分類・整理していけるよう、記録する段階から次のように「**キャッチカード**」の活用を働きかけていく。

キャッチカード (付箋 ^{せん} 式の記録カード) <ul style="list-style-type: none"> ・ 一枚のカードには一つの事実やそれらにかかわる気付きを書くようにする。 ・ 事実と気付きは色別に区別して記録していくようにする。 ・ 書き切れないときは番号をつけ、別のカードに書くようにする。 ・ カードには見出しをつけるようにする。

- ・ 児童が、カードの蓄積や分類・整理のための操作がしやすいように、大判の台紙上での取組を働きかける。
- ・ 児童が、資料から読み取った事実や気付きの共通点や相違点、重要性、妥当性などに着目しながら相互に吟味を重ねていけるよう、分類・整理の段階で、再度追究の視点に即して蓄積した事実や気付きをグループに分けたり、グループごとにタイトルをつけたりするよう働きかけていく。

資料から読み取ったことをつなげる活動

まとめる過程において、児童が、資料から読み取った事実や気付きの相互の関連に着目していく必要感を高め、それらの意味するところを統合してとらえていけるよう、以下のように資

料から読み取ったことをつなげる活動を働きかけていく。

- ・ キャッチカードやワークシートの活用を促し、グループ内からグループ間への事実や気付きの関連付けや再構成が次のように段階的に図られていくようにする。

グループごとにつけたタイトルを手がかりとし、タイトルの基となった共通項に着目しながら、順序性や関連性を考え、グループ内のつながりの再構成を試みる。
相互のタイトルの順序性からグループ間の事実のつながりを検討し、グループ内の構成同士の関連性を考えながら「調べてわかったこと」として再構成を試みる。
をもとにグループ間の気付きのつながりを検討し、グループ間の構成同士の関連性を考えながら「ここから考えられること」として再構成を試みる。

- ・ 各段階を通して、つながりの支障となる構成要素、あるいはタイトルそのものの妥当性について吟味し直したり、つながりを補う新たな事実や気付きを追加したりするよう働きかけていく。

これらとともに、各過程において以下のような指導方針をとるものとする。

総合単元的な視点から、各教科、総合的な学習、業前活動等との関連を図り、学習の動機付けや発展の場として効果的に位置付けるようにする。

つかむ過程では、児童が、情報の活用について関心を高め、切実性を伴う問題を見いだしたり、追究の視点を具体的にとらえたりできるよう、問題へと結びつく場面を設定した共有性のある具体例(「沖縄への初めての家族旅行」)を通して追究を働きかけていく。

見通す過程において、

- ・ 児童が、追究に際してより明確な見通しをもつことができるよう、「学び方ガイド」の活用を働きかけ、具体例を交えながら、必要な学び方について理解を促していく。
- ・ 児童が、各自の学びの在り方や成果をふり返ったり、見直したりすることができるよう、見通す過程から、「お見通し！チェックカード」の活用と「お見通し！ステーション」での交流活動を働きかけていく。「お見通し！チェックカード」と「お見通し！ステーション」については、次のように位置付け、取り扱うものとする。

お見通し！チェックカード	自己、相互の学びをふり返る評価カード。自分の学びをふり返る「マイポジション」と友達の取組や教師の助言をふり返る「なるほどポジション」、次時に向けた「お見通し！チェック」により構成する。
お見通し！ステーション	自己、相互のふり返りを共有し各自の取組に生かしていくための交流の場。カードの掲示や場の移動などの環境設定が容易で必要に応じて弾力的に機能するよう配慮する。

調べる過程において、

- ・ 資料活用の観点から、個の学び方に応じたきめ細かな指導・支援の充実が図れるよう、学習タイプによる次の2コースを設定し、活動を展開する。

[じっくりコース]	資料のわかり具合を確かめながら、先生や友達と相談して調べを進めていく
[ぐんぐんコース]	いろいろな資料を自分で集め、わかり具合を確かめながら調べを進めていく

- ・ 児童が、追究の見通しに基づいて、適切な観点から追究を深めたり、広げたりしていくことができるよう、教科書を学びを支える起点となる資料として位置付けていく。
- ・ 児童が、資料活用において、新たな学び方を見いだしたり、それらの共有・交流を図り取組に生かしたりしていくことができるよう、「学び方ひろば」を以下のように設定し、活用を働きかけていく。

学び方ひろば	・ 資料へのかかわり方に関する図書資料、資料活用にかかわる基礎的な知識を補うヒントカード、「お見通し！ステーション」により構成する。
---------------	--------------------------------------------------------------------

- ・ 各コース間を連絡する場にスペースを確保し、共有が図られるようにする。
- ・ 図書資料、ヒントカードは、選択の幅をもたせ、自由に活用できるようにする。
- ・ 「ステーション」は、必要に応じて「学び方」にかかわる話し合い・交流の場として機能する常設の環境とする。

ねり合う・表す・伝え合う過程では、児童が、個による学びを共有しながら相互に生かして合っていけるよう、各段階に応じた交流及び自己・相互評価の場や形態を工夫していく。

見つける過程では、児童が、個の学びやそれらをつなぎ合わせた同視点グループによる表現や発信の内容をもとに、情報の活用のもつ意味をとらえていけるよう、具体的事例において設定されている場面を満たす（場面設定に合う情報を有効活用する）にはどのようなことに気をつければよいか、異なる視点から成る班ごとの話し合いや発表を促すとともに、それらに対する討論会を働きかけていく。

解決する過程では、児童が、情報の活用のもつ意味にかかわる的確な気付きを相互に結びつけながら問題解決に至れるよう、学習のふり返りの見取りをもとに、意図的な働きかけを工夫していく。

指導計画（全11時間予定）

は学習形態、他は一斉

過程	時	学 習 活 動	教師の主な支援及び指導上の留意点	主な評価項目(方法)【観点】
つ か む	1	<ul style="list-style-type: none"> ・放送局の見学や家庭での情報の活用調べから、気付いたことや疑問に思ったことを話し合う。 ・気付きや疑問をもとに「沖縄への初めての家族旅行」という具体例の中の場面設定について確認し合い、それらを通して問題と追究の視点をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の活用の様子調べについては、「いつ、どこで、だれが、どこから、どんなことを、何のために」の観点から促しておき、それらの交流から情報や情報を取り扱う仕事について見方や気付きを広げていけるようにする。 ・共有性のある具体例の中に様々な面から情報と向き合う必然性を伴う場面を設定し、それらを満たすために目を向ける必要のある情報について気付きを促すことにより、追究の視点や手だてを具体的にイメージしたり、追究の切実感を高めたりしていけるようにする。 ・問題に照らして具体例の場面設定を介した情報の活用の仕方に対する追究が、問題の解決に結びついていくことを理解できるようにする。 ・情報を受け取る側だけでなく、送る側の立場からも追究していくよう働きかけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放送局の見学、情報の活用調べ、具体例に関心をもっている。 （観察・発表） 【関・意・態】 ・それらをもとに問題や追究の視点を考えている。 （発表・お見通しチェックカード） 【思・判】
		<p>問 題</p> <p>様々なかたちでもたらされる情報をわたしたちはどのように活用していけばよいのでしょうか。</p> <p>具体例の場面設定をもとにした追究の視点</p> <p>行楽・レジャー情報 医療情報</p> <p>交通情報 宅配便情報 気象情報</p>		
見 通 す	TT ・ 班 別 2	<ul style="list-style-type: none"> ・同視点の班に分かれ、情報をどのように活用していったらよいか、各視点から追究するための見通し（予想や調べ方）を立てる。 ・「お見通し！ステーション」で、追究の見通しについて交流し合う。 ・これまでの学び方のふり返りに基づく自己診断や学習相談を通して、自分に合った調べ方のできそうなコースを選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学び方ガイド」や「お見通しチェックカード」の活用を促し、自らの予想をもとに調べ方をとらえていけるよう助言していく。 ・互いの見通しに対して共有・交流し合う場を取り入れることにより、一層の見直しが図れるようにする。 ・「学び方ガイド」の活用やこれまでの学び方のふり返りを促すことにより、自分に合った適切な調べ方をイメージできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の視点について予想したり、そこから適切な調べ方を考えたりしている。 （観察・お見通しチェックカード） 【思・判】
		<p>じゅくりコース</p> <p>ぐんぐんコース</p> <p>同視点班から各コースへ分散し、先生や友達と相談し、教科書から得た談して、教科書！手がかりをもと</p>		
個		<p>じゅくりコース担当T</p> <p>ぐんぐんコース担当T</p> <p>同視点班から各コースへ分散し、先生や友達と相談し、教科書から得た談して、教科書！手がかりをもと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「学び方ひろば」の共有、活用を促し、よりよい調べ方を見いだしていけるようにする。 ・追究の視点をもとにした資料の精選や活用が次のように 	<p>[じゅくり]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追究の視点をもとに、教科書を起点とした資料を吟味、

調 べ る	学 習 タ イ プ 別 少 人 数 3 ・ 4	を中心とした資料のわかり具合を段々に確かめながら調べていく ・キャッチカードを活用し、資料から読み取った事実や気付きを記録・蓄積し、それらをグループ化し、タイトルをつけて分類・整理する。	にいろいろな資料を自分で集め、わかり具合を確かめながら調べていく 段階的になされるよう促す。 ・教科書から調べ始める ・もっとくわしく調べたいことについて主に先生や友達と調べる。 ・教科書から調べたことに付け加えていく。 ・個の見取りに応じ、意図的に学習相談を働きかけていく。	発展的になされるよう促す。 ・教科書から手がかりになる事柄を見つけ出す。 ・それらをもとに主に自分で資料を集めていく。 ・教科書とそれらの資料を併せ調べを膨らませていく。 意図的に学習相談を働きかけていく。 ・事実と気付きは色別々に区別する、一枚に一つの実事・気付きを記録する、個々に見出しをつけるなどの約束を確認する。 ・蓄積、分類、整理は大判の台紙上で行うよう働きかける。 ・蓄積の段階からキャッチカード同士の比較を働きかけ、相互に取捨選択、加除修正等を加えながらグループ化したり、タイトルをつけたりしていけるようにする。	活用している。 【観・技・態】 ・資料から読み取った事実や気付きに対して、追究の視点に即した確認や見直しを重ね、見いだした価値を表現している。 (キャッチカード、お見通しチェックカード)
ま と め る	IT ・ 個 人 5 本 時	・グループ化し、タイトルをつけた事実や気付き同士をキャッチカードやワークシートを活用して、グループ内からグループ間へと段階的に関連付け、再構成し、「調べてわかったこと」、「ここから考えられること」をまとめる。	・キャッチカードは、事実、気付きのつながりを考える際の並べかえ、組みかえ、追加、削除等の操作に活用していくよう働きかける。 ・ワークシートの様式を工夫し、事実や気付きの関連付けや再構成を段階的に図る一助となるようにする。 ・グループ化された事実、気付きの共通項やグループのタイトルに着目して順序性や関連性を考えていくよう個に応じ助言を重ねていく。	・キャッチカードは、事実、気付きのつながり ・ワークシートの様式を工夫し、事実や気付きの関連付けや再構成を段階的に図る一助となるようにする。 ・グループ化された事実、気付きの共通項やグループのタイトルに着目して順序性や関連性を考えていくよう個に応じ助言を重ねていく。	【観・技・態】【思・判】 ・追究の視点に即した相互の関連に着目し、調べてわかったこと、ここから考えられることをまとめている。 (ワークシート、お見通しチェックカード) 【思・判】
ね り 合 い /表 す/伝 え 合 う	6 7 8 9	・各コースでまとめたことを同視点班で分類・整理したり、関連付けたりして、適した方法で表現・発信する。 *新聞の特徴を使って表してみよう *放送局の見学や体験を生かして伝えてみよう 等	・班内での、各自が調べたり、まとめたりしたことの比較、関連付けを促し、そこからどんなことがわかるか、考えられるかを引き出していけるようにする。 ・班内でのねり合いをもとに、目的に合った表現や発信の方法を発想していけるよう働きかける。	・班内での、各自が調べたり、まとめたりしたことの比較、関連付けを促し、そこからどんなことがわかるか、考えられるかを引き出していけるようにする。 ・班内でのねり合いをもとに、目的に合った表現や発信の方法を発想していけるよう働きかける。	・追究したことを生かしながら話し合っている。 (観察、ワークシート) 【思・判】 ・目的に応じた方法で表現したり、発信したりしている。 (観察、発表資料) 【観・技・態】
見 つ け る	10	・伝え合ったことをもとに、異なる視点から成る班に分散し、班ごとに具体例の場面設定に対して「こんな場合、どんなことに気をつけて情報を手に入れたり、役立てたりしていったらよいか」話し合い、班ごとの発表に基づいて討論する。	・具体例の場面設定について、各視点からの追究からわかったり、考えたりしたことを結びつけて考えていくよう働きかけていくことにより、問題に迫っていけるようにする。 ・異なる視点から追究した児童より成る班相互の討論会を働きかけることにより、「なぜそのようにするのか」という点に目を向け、情報の活用のもつ意味に気付いていけるようにする。	・具体例の場面設定について、各視点からの追究からわかったり、考えたりしたことを結びつけて考えていくよう働きかけていくことにより、問題に迫っていけるようにする。 ・異なる視点から追究した児童より成る班相互の討論会を働きかけることにより、「なぜそのようにするのか」という点に目を向け、情報の活用のもつ意味に気付いていけるようにする。	・追究、交流したことをもとに話し合っている。 (観察)【知・理】 ・情報の活用のもつ意味をとらえている。 (発表、お見通しチェックカード) 【思・判】
解 決 す る	11	・討論会をもとに、どのように情報に向き合っていけばよいか話し合い、問題を解決する。	・前時の討論内容にかかわる学習の振り返りの見取りをもとに、情報の活用のもつ意味に目を向けた気付きを意図的に取り上げ、それら相互の関係から問題との結びつきを考えていけるようにする。	・前時の討論内容にかかわる学習の振り返りの見取りをもとに、情報の活用のもつ意味に目を向けた気付きを意図的に取り上げ、それら相互の関係から問題との結びつきを考えていけるようにする。	・情報活用の意味のとらえを問題と結びつけて考えている。 (発表・お見通しチェックカード) 【思・判】

本時の学習

1 目 標

「『沖縄への初めての家族旅行』のために情報をどのように活用していったらよいか」について、各自の追究の視点に即して資料から読み取ったことをつなげ、調べてわかったこと、ここから考えられることをまとめる。

2 準 備

児 童：キャッチカード及び整理用台紙、お見通しチェックカード、学び方ガイド

教 師：ワークシート、評価の見取り表、学び方ひろば

3 展 開

過程	時間	学 習 活 動	支援・指導上の留意点
つかむ / 見通す	5分	<p>本時の学習について知り、活動の見直しをもつ。</p> <p>キャッチカード、ワークシートの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内のつながりの再構成 ・グループ間のつながりの再構成（調べてわかったこと） （ここから考えられること） 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時は、グループ化しタイトルをつけたキャッチカードをもとに、資料から読み取ったことをつなげ、まとめていくことを知らせる。 ・ワークシートにより、グループ内のつながりを考えるところから段階的にまとめていく手順を確認する。 ・キャッチカードの便利な点について投げかけ、並べかえ、組みかえ、追加、削除等の操作に生かしていけるよう促す。
追究する / とらえる	35分	<p>キャッチカードの見直しやグループごとのタイトルをもとに、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内のつながりを考え、ワークシートにまとめる。 ・それぞれのグループのタイトルを順序を考える手がかりとしながら、グループ間の事実のつながりを考え、ワークシートに「調べてわかったこと」をまとめる。 ・「調べてわかったこと」をもとに、グループ間の気付きのつながりを考え、ワークシートに「ここから考えられること」をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッチカードを並べかえたり、組み合わせたりすることがつながりを考える手だてになることを投げかけていく。 ・グループのタイトルやその基となった事柄に着目していくよう働きかける。 ・うまくつながりを見い出せない児童には問題や追究の視点の想起を促し、各カードの内容やタイトルについて再度見直していくよう働きかけるとともに、つながりの支障となる事実や気付きを指摘したり、つながりを補う事実や気付きを追加したりするよう働きかけていく。 ・順序性や関連性を考える上で必要に応じ接続語や指示語を用いていくよう働きかけるとともに、見取りに応じ適切な用い方ができるよう助言していく。 ・的確な取組を展開している児童を賞賛し具体的に紹介するなどして相互の学び合

ふりかえる / 見直す	5分	<p>いが促されるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事実に基き自分の考えを的確に表現している取組を賞賛する。 ・ 自らの学びについて見直したり、自信や安心感を深めたりしていけるよう投げかけや助言をしていく。 ・ 「お見通しステーション」への掲示を働きかけ、学びにかかわる交流・共有が一層促されるようにする。 ・ 個々が学び得たことを同視点班でさらに比べたり、つなげ合ったりして、まとめていくことを伝え、次時への期待感がもてるようにする。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習をふり返り、「お見通しチェックカード」に記入する。 ・ 次時の学習内容について知る。

問題追究のための具体例

さあ、こんなときどうする？

「どんな情報を、
どうやって集め、
どのように活用する?!」

どのようなところに目をつけてつきとめていったらいいだろう。

? Q ?

林くんは、家族で1週間後に沖縄に行くことになっています。初めての沖縄。みんなとても楽しみにしています。中心になって旅行の計画を立てているのは、お父さんです。お母さんは、沖縄での食事や買い物を楽しみにしています。林くんは、海水浴や世界遺産の首里城に行くのが楽しみです。家族には、ほかに2才になる妹がいます。出発日は土曜日に当たっています。千葉県成田空港までは自家用車で、その後は飛行機を利用して行きます。荷物は、2日前に先に送ってしまうつもりです。あいにく、沖縄の南には、台風10号が接近してきています。

情報を受け取る人だけでなく
送る人の立場からも考えてみよう

よりよい旅行にしたい日々

つなげる活動において活用を図ったワークシート

キャッチカードをくらべよう・つなげよう！ 5年

★キャッチカードは、グループの中（タテ）やグループの間（ヨコ）でどのようにむすびついていくかな？
 自分は一体何をつなごうとしているのか、また、そのために何をにつなげたのか、もう一度思い返しながらまとめていこう！

タイトル **■** 例えば **■** 合意内容をまとめる **■** タテのつながり **■** ヲノダノ情報を探し出す **■** 連携し続けるデジタル放送

ヨコのつながりも考えながら、「調べてわかったこと」をまとめてみよう

ここから考えられること（言えること）は、

お見通しチェックカード

5年（班）

お見通し！ チェックカード

各班（グループ）でつなごうとする問題（むずかしい）

問題をつなごうとするためにどうしたらよいだろうか？どんなことが、（何が）必要なのだろうか？ お見通し！ お見通し！！

お見通しする上での **＜目のつけどころ＞**

○手がかりを見つけた ○手がかりのあとをたどる ○まとめることの意味 ○集めたことの意味 ○…などなどからキャッチしている！

＜今日の学習を＞ **スティーション活動** **＜今日かえって＞**

満足！度 ☆☆☆ **見直そう！確かめよう！度 ☆☆☆** **なるほど！度 〆〆 〆〆 〆〆**

よし！ お見通し！！

次の時間から誰か人なろう にして！お願い！！

先生より